

はばたけ 広島サンダース

久原 大輝

大同生命SVリーグの2季目は、大阪Bの優勝で幕を閉じた。サンダースは1、2日にあったプレオフ（PO）準々決勝で名古屋に敗れ、最終順位は5位。シーズンを通して掲げてきた「ベスト4」という目標にはあと一步届かず、悔しさの残る結果となった。ただ、その悔しさこそが来季への原動力になるに違いない。

クーパー・ロビンソン選手は最優秀新人賞を受賞。プロリーグ1年目とは思えない圧巻のプレーで存在感を発揮し、多くのバレーボールファンに強烈なインパクトを

「サンディ」の応援が力に



最終戦となった名古屋戦後に
集合写真に納まる選手たち

(2日)

残した。

レギュラーシーズン44試合とPOの計46試合を戦い終えて、改めて感じたことがある。サンダースを応援する「緑」の輪が確実に広がっていることだ。今季からファンネーム「サンディ」が誕生し、サブコールや「GO! GO! サンダース」コールも試合を重ねるごとに大きくなった。選手たちとともに戦っている。そんな一体感を今季は特に何度も感じた。

最終戦となった名古屋戦でも、最後まで鳴りやまない応援が会場を包み込んだ。その光景と声の力強さには胸を打たれた。サンディの一体感は、本当にすさまじい。来季はもっと多くの勝利を届け、サンディとともに喜びを分かち合えるシーズンにしたい。

(広島Tマネジャー)